

製品名: CRSP130 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09423**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000 |
| 分子量 | 150kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | MED23 MED23; ARC130; CRSP3; DRIP130; KIAA1216; SUR2; Mediator of RNA polymerase II |
| 別名 | transcription subunit 23; Activator-recruited cofactor 130 kDa component; ARC130; Cofactor required for Sp1 transcriptional activation subunit 3; CRSP complex subu |
| 遺伝子 ID | 9439.0 |
| SwissProt ID | Q9ULK4 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト MED23 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50 |

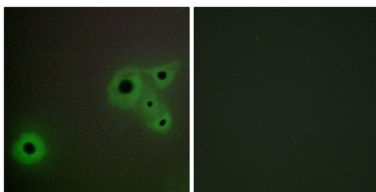
背景

遺伝子転写の活性化は、DNA中の転写エンハンサー部位を認識する因子によって引き起こされる多段階プロセスです。これらの因子は、コアクチベーターと連携してRNAポリメラーゼII装置による転写開始を誘導します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、CRSP (SP1活性化に必要な補因子) 複合体のサブユニットであり、TFIIDとともに、SP1による効率的な活性化に必要です。このタンパク質は、甲状腺ホルモン受容体 (TR) 関連タンパク質など、他の多サブユニット複合体の構成要素でもあります。TR関連タンパク質はTRと相互作用し、開始因子および補因子と連携してDNAテンプレート上でTRの機能を促進します。このタンパク質は転移抑制因子としても機能します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq提供、2012年7月]、代替製品：一部のアイソフォームについては実験的確認が不十分な場合があります。機能：開始前複合体の組み立て後の転写活性化に必要(類似性による)。メディエーター複合体の構成要素で、ほぼすべてのRNAポリメラーゼII依存性遺伝子の転写制御に関与するコアクチベーターです。メディエーターは、遺伝子特異的な制御タンパク質から基本的なRNAポリメラーゼII転写機構へ情報を伝達する橋渡しとして機能します。メディエーターは、制御タンパク質との直接相互作用によってプロモーターにリクルートされ、RNAポリメラーゼIIおよび一般的な転写因子との機能的な開始前複合体の組み立ての足場として機能します。アデノウイルスE1Aタンパク質による転写活性化に必要です。活性化Rasシグナル伝達に応答したELK1依存性転写活性化に必要です。類似性:メディエーター複合体サブユニット23ファミリーに属します。サブユニット:ELK1と相互作用します(類似性による)。メディエーター複合体の構成要素であり、MED1、MED4、MED6、MED7、MED8、MED9、MED10、MED11、MED12、MED13、MED13L、MED14、MED15、MED16、MED17、MED18、MED19、MED20、MED21、MED22、MED23、MED24、MED25、MED26、MED27、MED29、MED30、MED31、CCNC、CDK8、およびCDC2L6/CDK11から構成されます。MED12、MED13、CCNC、およびCDK8サブユニットは、CDK8モジュールと呼ばれる独立したモジュールを形成します。CDK8モジュールを含むメディエーターは、このモジュールを含まないメディエーターよりも転写活性化の促進活性が低くなります。メディエーター複合体のうち、1つ以上の異なるサブユニットを欠く個々の標本は、ARC、CRSP、DRIP、PC2、SMCC、TRAPなど様々な名称で呼ばれています。CEBPB、CTNNB1、GLI3と相互作用します。アデノウイルスE1Aタンパク質とも相互作用します。

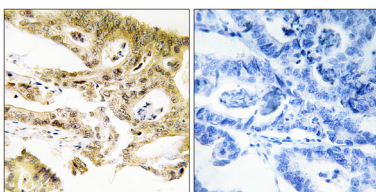
研究分野

-

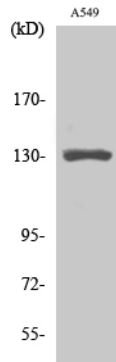
画像データ



MED23抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



MED23抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



CRSP130 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタン ブロット分析。